

大規模な施設園芸団地 × 最新技術のスマート農業

新しい農業スタイルで未来の地域農業を支える



施設園芸団地で入植するきゅうり生産者の皆さん(左から深川覚博さん、梶原雅之さん、鷺池幸治さん)



新規就農者に人気の施設園芸

「施設園芸農業」とは、ガラス室やビニールハウスを利用して野菜などの園芸作物(野菜類・花き・果樹)を栽培することで、天候や外気温の影響を減らして、安定した生産ができる農業形態のひとつです。

施設園芸は、米・麦・大豆といった露地栽培と比較して、面積当たりの収益が大きいことや栽培できる作物の選択肢が豊富で、工夫次第で様々な付加価値が付けられることから、新規就農者に人気がある分野です。

「さが園芸888運動」に見る施設園芸の振興

佐賀県が令和元年度に定めた、さが園芸888運動では「稼げる農業」の実現のため、園芸分野の農業産出額を

今回の特集では、新規就農者の新たな受け皿として期待されている施設園芸団地について紹介します。



今後10年間で888億円まで押し上げることを目標に掲げています。

そのための取り組みとして、新規就農や規模拡大を行う生産者に対して、様々な支援が押し進められています。

大町町でも、町内にきゅうり農家が多く、就農後の指導・支援体制が整っていることから、きゅうりを中心とした新規就農者の育成や特産品としての位置づけを図るため、令和元年10月から施設園芸団地構想を進め、昨年12月から本格的に稼働しました。

スマート農業による農業経営

園芸団地には、スマート農業が導入されていることも大きな特徴です。ハウス内の光環境、温度、湿度、二酸化炭素、灌水(水やり)を細かく調整し、作物生育に最適な環境を維持する環境制御装置が取り入れられています。